



日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取り組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	3
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介.....	6

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2018」作品募集中です！（5月31日（木）まで）

JRRN 事務局では、水辺がつくる美しい景観の未来への継承を目的に、今年も皆様が撮影された「桜のある水辺風景」の写真をただいま募集しております。

沖縄から北海道まで全国からご応募をお待ちしています。



桜のある水辺風景 2018 写真大募集

募集期間 平成30年 5月31日（木）まで

会場も桜の美しい季節を迎えました。水辺がもたらす美しい景観の未来への継承を目的に、「桜のある水辺風景」を募集し、Facebookや写真集を通じて紹介させていただきます。沖縄から北海道まで、日本の水辺の魅力を共有できようかなと桜の季節を大切にしています。

桜のある水辺風景（2018年撮影の作品に限ります。）

★ 応募概要
①ご本人が撮影した写真に限ります。②一人3点まで可能です。③個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください。

★ 応募方法
Eメールでの応募
タイトル欄「桜のある水辺風景 2018 応募」とし、本文に氏名、Eメールアドレス、題名、写真コメント、撮影年月、撮影場所（※河川・水辺名、地名）を記入の上、写真と共に info@a-rr.net まで送付下さい。
※1通のサイズが3MB以下となるようにお願いします。

★ 注意事項
①Facebook及び写真集形式（PDFを予定）で紹介いたします。
②応募作品を紹介する際には氏名も掲載します。
③同一地点での類似した作品は事務局により写真集掲載作品を選ばせて頂く場合があります。
④応募内容が本企画の趣旨に沿わないと判断した場合は紹介を控えさせていただきます。
⑤JRRNの刊行物やウェブサイト等で使用させて頂くことがあります。※応募作品は返却致しません。
※応募に関する詳細情報はこれから：<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/883.html>

桜のある水辺風景 2018 応募シート	
氏名	Eメールアドレス
題名	写真コメント
撮影年月	撮影場所

主催：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 応募先・問合せ先：info@a-rr.net 

《募集ページ》

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/883.html>

《過去の応募写真集がご覧いただけます》

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

桜のある水辺風景 2018 応募要項 (Eメールの応募)

応募概要：

桜のある水辺風景（2018年撮影の作品に限ります）

- ①ご本人が撮影した写真に限ります。
- ②一人3点まで可能です
- ③個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください。

応募方法：

タイトル欄「桜のある水辺風景 2018 応募」とし、本文に氏名、Eメールアドレス、題名、写真コメント、撮影年月、撮影場所（※河川・水辺名、地名）を記入の上、写真と共に info@a-rr.net まで送付下さい。

※1通のサイズが3MB以下となるようにお願いします。

注意事項：

- ①Facebook及び写真集形式（PDFを予定）で紹介いたします。
- ②応募作品を紹介する際には氏名も掲載します。
- ③同一地点での類似した作品は事務局により写真集掲載作品を選ばせて頂く場合があります。
- ④応募内容が本企画の趣旨に沿わないと判断した場合は紹介を控えさせていただきます。
- ⑤JRRNの刊行物やウェブサイト等で使用させて頂くことがあります。
- ⑥応募作品は返却致しません。

応募先・問合せ先： info@a-rr.net （JRRN 事務局）

※facebookでの応募方法はこれから

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/880.html>

（JRRN 事務局・澤田みつ子）

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト『第7回小さな自然再生現地研修会 in 岡山』報告書発行案内

2017年12月6日(水)、7日(木)の2日間に渡り岡山県西栗倉村・吉井川流域にて開催した『第7回「小さな自然再生」現地研修会』の報告書が完成しました。

本研修会では、地元企業であるエーゼロ株式会社、応用生態工学会(大阪地区会、岡山地区会)の共催で開催したもので、「吉井川のつながりを取り戻すには小さな自然再生で何ができるか」をテーマに、河口から源流までの現地視察、座学とワークショップによる充実した研修内容となっています。

【研修会プログラム】

12月6日(水)

■吉井川流域現地視察

■「小さな自然再生」に関する座学研修

- 小さな自然再生のすすめ
(三橋弘宗：兵庫県立大学自然・環境科学研究所)
- 事例紹介「安価に川をつなぐときの注意点」
(浜野龍夫、徳島大学大学院)
- 事例紹介「多主体協働による琵琶湖固有種ビワマスの産卵・遡上環境再生の取り組み」
(佐藤祐一、滋賀県琵琶湖環境科学センター)
- 意見交換 ～現地視察を踏まえた課題の洗い出し

12月7日(木)

■ワークショップ

『吉井川のつながりを取り戻すには小さな自然再生で何ができるか?』

ファシリテーター：

三橋弘宗：兵庫県立大学自然・環境科学研究所)

- グループ討議：各班でアイデア出し合い討議
- 全体討議：専門家による総括を交えた全体討議

今回発行した報告書は、研修会を通じて西栗倉村を流れる吉井川(支川吉野川)を軸とした地域活性化に向けてできることについて、参加者と共に議論した内容を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。合わせて、報告書後半部の参考資料では、座学研修での講演資料も掲載しています。

今回の研修会は2日間の行程ということもあり、ワークショップや意見交換の時間も多めにとっており、西栗倉村の外から訪れた方々を中心とする参加者が、当該地域の抱える課題に対して真剣に向き合う様子が、議論の内容(報告書10～16

頁)から読み取れると思います。

今回のような川の上流部における限られた資源を活かした地域活性化については、各地で同様の課題や悩みを抱えていると思われる、「小さな自然再生」を含む様々なアプローチによって地域でできる取組みのヒントになれば幸いです。

研修会へご参加いただいた皆様、事前準備や当日の運営、その後のフォローアップに至るまでのご尽力をいただいた協力先の皆様、「小さな自然再生」研究会の皆様に改めて感謝を申し上げます。

なお、本活動は(公財)河川財団の河川基金の助成を受けて実施したものです。



第7回「小さな自然再生」現地研修会 開催報告書

ダウンロードはこちらから(全40ページ・PDF 6.9MB)

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/216>

※水辺でできる小さな自然再生の事例、参考資料、研修会成果等は、以下のホームページよりご覧頂くことができます。

■水辺の小さな自然再生ホームページ

→ <http://www.collabo-river.jp/>

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

4 月



撮影：2017 年 3 月（北海道 雨竜郡 幌加内町）



あの日のあの川 リレー日記 ～第 37 話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 37 話 上田純祐

(筑波大学 国際総合学類 国際開発学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ)

(■川系男子)

(出身地を流れる川：愛知県庄内川)

「春よ、来い」

いつのこと？：2017 年 3 月

どの川？：雨竜川

これを書いているときはもうすぐ春分の日である。茨城県を含む関東ではもうすでにあちこちで桜の蕾が開きはじめ、春を迎えているところもある。一方で、場所によってはいまだ雪解けを待ち、白い雪に閉ざされたところもある。今回はそんな寒い地方を題材にして、一風変わった、いや季節外れな 4 月号をお届けしたい。

北海道の小さな町

北海道雨竜郡幌加内町は、北海道の中央やや左、旭川市の北西に位置する、小さな町である。ここは日本でも有数の寒極として知られ、昭和 53 年には同町母子里地区で -41.2°C の日本最寒気温を記録している。この寒さゆえ、3 月上旬では多くの日で -10°C 前後であり、下旬でも最高気温が氷点下となる日が多い。町の名産品としては幌加内そばがあり、そばの生産量はなんと約 3,000 トンを数え、日本一である。筆者がここを訪れたのは今年の 3 月頭であるが、町では道の両脇に雪が高く積もり、一面の雪景色が広がっていた。印象としては、雪に閉ざされた寒村であった。

雨竜川

そして、この寒い町を、一つの川が流れている。その川の名を、雨竜川という。空知地方最北部の山々を源流とし、南へ流れ下って石狩川と合流する。ここに、筆者が橋から川を撮影したものを載せておく。3 月になっても、寒さのためか、川面が凍り付き、その上に厚く雪が積もっていた。それは日本の景色とは思えず、どこか極地の川を見たような感情を抱いた。



深川市鷹泊から望む雨竜川

この凍った川の中にも魚やたくさんの生き物が住んでいるに違いない。氷の下で生き物はどのように冬を越しているのだろうか？

遠くの景色を見つめながら写真を撮っていると、橋台のもとで氷が割れ、流水が姿をのぞかせていることに気が付いた。もう少し雪が厚く積もっていたならばおよそ川には見えないところでも、雪氷の下では水が流れていたのだ。川は、おのずから姿を見せずとも、人の五感に訴えかけて、そこに川があることを確認させてくれる。春を告げるであろう花の香りはしなかったが、氷の下を流れる水の音が、川が生きていることを実感させてくれた。

しゅまりないに 朱鞠内湖



冬の朱鞠内湖

雨竜川をさらに北に向かって遡っていくと、日本最大の人造湖である朱鞠内湖にたどり着く。この湖は雨竜川の源流に位置するダム湖で、面積は約 2,300ha で日本最大、およそ東京ドーム 500 個分というからその大きさが伺える。面白いことに、この湖はちょうどモミジの葉のような、人の手を広げたような形をしている。朱鞠内湖はワカザギ釣りの名所として有名で、平日にも関わらず数十組が湖上で氷に穴をあけて釣りを楽しんでいた。

それにしても、この大きさの湖が氷に覆われるとは、自然の力に驚かされる。

4 月になれば、寒気の後退とともに気温がぐんぐん上昇し、この町でも遅い雪解けが始まる。川を覆っていた氷や雪が清らかな水に変わり、雨竜川、そして流れ込む石狩川流域の水田を支えている。川や陸の生き物たちも冬眠から目覚め、生命を息づかせるのだ。

春を過ぎれば、この町名産のそばが一斉に花を咲かせる夏がやってくる。8 月下旬から 9 月上旬にかけて開催される「幌加内町新そば祭り」は、全国各地から幌加内のそばを目当てに 4 万人以上が訪れる一大イベントである。筆者はまだ見たことが無いが、一面を覆いつくすそばの花は壮観の一言だそう。

そして 11 月には、どこよりも早く雪が降り始め、この町はまた深い雪に覆われるのである。



新成生地区のそば畑（幌加内町 HP より）

（次号は 6 月号にて仲田英人さんにバトンを託します）

水辺からのメッセージ No.107

岡村幸二 (JRRN 会員)

目黒川春舞台：

桜の枝は空より水辺に近づいて 水上から眺めればさらによし



撮影：2018年3月（東京都目黒区・目黒川）

◆目黒川桜並木の変遷

目黒川の桜は過去に大きな試練を乗り越えてきています。40年ぐらい前に目黒川拡幅で既存の桜を切らざるを得ない状況でした。当時のマスコミからは「桜を切らせるな」キャンペーンがあったようです。

◆40年たって見事な桜並木に

そしてここ数年で目黒川は、東京の主要な桜名所に登りつめました。樹木の再生期間は意外と早いものです。最近では水質浄化の一環で、河床のヘドロ対策にも徹底した対策をとり、川の水の色も「黒色から青緑色に」変わってきたように思います。



JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内 (2018年4月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■災害文化遺産 日本の禹王遺跡と治水神・禹王信仰展

○日時：2018年3月16日(金)～5月16日(水)
 ○主催：立命館大学 歴史都市防災研究所 他
 ○場所：立命館大学 歴史都市防災研究所(京都府京都市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2759.html>

■第33回水郷水都全国会議 in 朝倉・久留米

○日時：2018年4月21日(土)～22日(日)
 ○主催：第33回水郷水都全国会議 in 朝倉・久留米実行委員会
 ○場所：久留米大学御井キャンパス 他(福岡県久留米市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2767.html>

■入間川水系への自然遡上アユ復活事業 Part2

○日時：2018年4月30日(月・祝日) 9:00-12:00
 ○主催：特定非営利活動法人荒川流域ネットワーク
 ○場所：川越市上戸運動公園(埼玉県川越市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3069.html>

■2018年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2018年6月12日(火)～13日(水)
 ○主催：土木学会水工学委員会河川部会
 ○場所：東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2703.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2018.6.4-8(フランス/リオン) 3rd International Conference on Integrative Sciences and Sustainable Development of Rivers (I.S.Rivers)
- 2018.8.19-24(東京) 12th International Symposium on Ecohydraulics (ISE2018)
- 2018.10.14-18(シドニー) 21st International Riversymposium

書籍等の紹介 *Publications*

■水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？(2017.3発行)

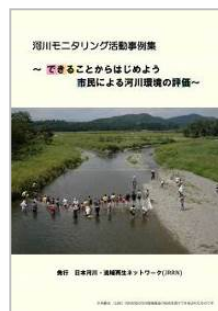
- ・発行：「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行年月：2017年3月
- ・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

Email: info@arr.net / 電話：03-6228-3865

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

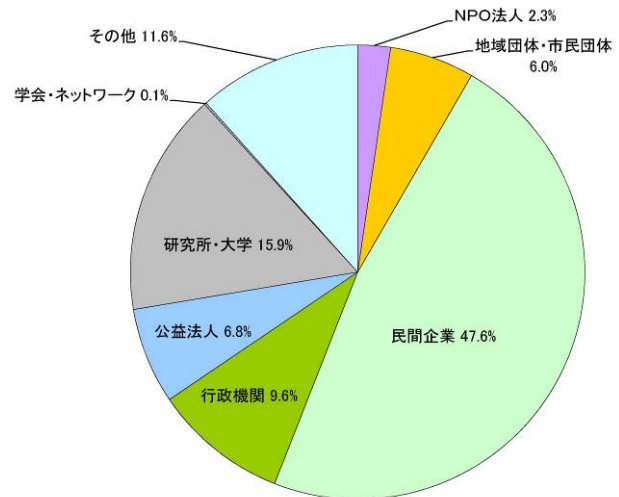
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2018 年 3 月 31 日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：772 名、団体会員数：59 団体)

※3 月の新規入会数：個人会員 0, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

